

## 岩手県支部

### 岩手県の「農林水産物・日本一」に関する調査研究

当支部は、平成 19 年度の調査・研究テーマとして、岩手県の「農林水産物・日本一」を取り上げることとし、平成 19 年 9 月に支部長以下 7 名の会員で委員会を結成した。

岩手県の「農林水産物・日本一」は 6 品目であり、これら 6 品目についてそれぞれ担当者を決し、当該品目が岩手県との関わりを持つに至った歴史的な背景や、全国的な地位、地域経済との関連などについて調査を進めた。さらに現状と課題を浮き彫りにし、将来の展望についての「提言」を盛り込むようにした。以下、6 品目についての要点を述べることとする。

**1. りんどう（シェア 69.0%）** ……昭和 46 年頃に米の「転作作物」として県内で栽培を開始した。平成元年に長野県を抜き全国一位となった。全国的に市場が縮小しており、県内でも生産農家が減っている。「敬老の日にはりんどうを！」などを提言した。

**2. うるし（シェア 59.7%）** ……縄文時代の遺跡から「うるし塗り」製品が出土している。現在は、輸入品におかれて、国内産のシェアは 2 %にも満たない。そんななかで、岩手県産のうるしの評価は高い。課題としては、「うるし掻き」職人の高齢化、後継者難など。「経済面」よりも「文化的な価値」を後世に伝えることの必要性などを提言した。

**3. わかめ（シェア 43.8%）** ……養殖技術は、中国大連市付近で昭和 5 年頃に始まった。日本（宮城県）に入ってきたのは、昭和 20 年。岩手県には昭和 25 年頃に大船渡市に入ってきて、三陸沿岸に普及した。最近では、輸入物におかれている。岩手県民がもっとわかめを食卓にのせることなどを提言した。

**4. ホップ（シェア 40.6%）** ……昭和 61 年から岩手県が日本一の産地になった。輸入品におかれて、国産品のシェアは 9.1%にすぎない。そんななか、ビール 4 大メーカーすべてが岩手県内のホップ産地と契約を結んでいる。課題としては、生産者の高齢化など。経営合理化による生産性の向上などを提言した。

**5. 木炭（シェア 25.4%）** ……日本一になったのは、大正元年。岩手は黒炭、和歌山（備長炭）は白炭。全国の生産量のピークは、昭和 28 年。その後減少を続けていたが、昭和 60 年から消費生活の向上による本物志向、グルメブームの到来などで生産が増加に転じた。課題は、安定的な経営の維持など。新しい用途開発に産学官の連携が必要などを提言した。

**6. あわび（シェア 17.1%）** ……岩手県と長崎県が日本一の座を競っているが、最近では岩手県が一歩リード。大船渡市吉浜産の乾鮑は「キッピンあわび」として中国に輸出されて高い評価を得ている。課題は密漁防止、高齢化対策など。岩手産あわびの統一ブランドの確立などを提言した。